
Turn misfortune into a blessing

紅月夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Turn misfortune into a blessing

【Nコード】

N1505N

【作者名】

紅月夜

【あらすじ】

自サイトにて拍手御礼小説としてのせてました。ちょっとした日乱です。

本当に、この世界は 本物の……？

「どうした？松本」

「いえ、何でもありません。隊長」

あたしの直属の上司である十番隊隊長日番谷冬獅郎は、少しうつむいて立ち止まったあたしを怪訝そうな顔で見た後、ふいっと興味を失ったかのように前を向き、また歩き出した。

今、あたしと隊長は流魂街のはずれに出たという虚の討伐に向かっている。

「ねえ、隊長……」

「何だ？」

「……………いえ、やっぱりいいです」

「はあ？……………変な奴だな」

あたしには、何が正しいのかわんて、判らないんです

言いたかった言葉を飲み込んで、あたしはまたうつむいた。

もし、この世界が「本当」じゃなかったら……？

あたしはどうするっていうの？きつと、助けてくれる人は居ないのに

でも、たぶん、あたしはまだ大丈夫

だって、貴方は変わらないから

誰かに呼ばれた気がして、あたしはふと顔を上げた。
すると、あたしに向かって何かを叫びながら、刀を抜く隊長の姿が見えた。

ああ、やっぱりこの世界は……

もう何も……信じられない

「松本っ！！！！」

あたしを呼ぶ貴方はだれ？

「何してんだ！！松本！！」

“貴方”は、本当に“貴方”？

「やめろ！！松本！！！！」

あたしは、どうせなら「本当」の貴方に……

「起きたか、松本」

目を覚ますと、あたしは隊長にお姫様だっこをされていた。

「何してんですか？隊長」

「……覚えてねえのか？」

何をです？と言いかけて、あたしは隊長の頬の切傷に気がついた。

「隊長、怪我したんですか？」

「ん？ああ、かすり傷だ。気にするな」

あたしはその切傷が気になって、穴があくのではないかという程、凝視した。

途端、頭の中を飛来した、ある映像。

「……あ、あたし、隊長に……！！」

そつだ、自分は隊長に刀を向けた。
自分が今存在しているこの世界が信じられなくなって、あたしは隊長に傷をつけた。

「……………ん……………」

あたしのその言葉に何を思ったのか隊長は、あたしを地面におろして、徐に話し始めた。

俺がお前を“変な奴”呼ばわりして、暫く後。

「松本、近くに虚がいるぞ。気をつける」

俺は虚の気配を感じ、己の部下に注意を促したが、返事は返ってこなかった。

「おい、松本？」

流魂街に着いたあたりから、今日の松本はおかしかった。
ぼんやりしていて、心此処に在らずという状態になっていた。
心配で振り返ると、松本の背後に虚がいた。

「後ろだ！松本！！」

うつむいて、考え事に没頭している副官を怒鳴って、俺は背負っていた鞘から刀を抜いた。

松本は、ゆっくりと俺の声に顔を上げて、そして、俺を見た。その瞬間、松本は俺に斬りかかってきた。

「松本っ！！！！」

俺は信じられない思いで松本を見て、声の限りに叫んだ。

「何してんだ！！松本！！」

俺は珍しく狼狽して、けれど松本の斬りかかってくる姿に違和感を覚えた。

「やめろ！！松本！！！！」

眼だ。眼が濁っている……？

松本の背後には、相変わらず虚がいて、俺は直感した。

テメエが元凶か！？

「霜天に座せ！！氷輪丸！！！！」

「……………で、今に至るわけですか」
「ああ」

虚の能力は、「相手の不安感を煽り、できた心の隙を使って相手を操る」という、トラウマを量産してくれるようなものだったらしい。

「厄介というか、何というか……………」

「……………二度と引つかかるなよ」

「はい？」

隊長の言った言葉の意味がよくわからなくて聞き返したら、隊長はあたしから視線を逸らしてもう一度小さく言った。

「頼むから、二度とあんな術に引つかかるな」

必死に懇願してくる様子が可愛くて、あたしは嬉しいのと同時に少し意地悪を試してみたくなった。

「また引つかかると思っているので、隊長がずっとあたしのことを護ってください」

「……………はあ？」

「だから、隊長は、ずっとずううっとあたしのことを護っていてください」

あたしのこのお願いに隊長は、頬を血とは違う赤さで染めて、こう返してくれた。

「なら、ずっと俺の側に居る」

） f i n ）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1505n/>

Turn misfortune into a blessing

2010年10月10日08時12分発行